

令和元年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム たんぽぽ (2F)

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100170		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム たんぽぽ (2F)		
所在地	〒020-0142 盛岡市稲荷町2-5		
自己評価作成日	令和2年1月3日	評価結果市町村受理日	令和2年4月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が気持ちよく過ごしていただけるように、清掃に力を入れております。「きれいでもっとも明るいですね」と見学された方に言っていたことが多く、季節を感じていただけるような室内の飾りつけや、利用者様と一緒に作った作品などを展示し、みんなで室内を作り上げております。居室内もそれぞれ日が差し込み明るく過ごしやすく作られており、備え付けのベッド、クローゼットも広く十分な収納スペースがあります。園での食器は瀬戸物を使用し、ご自宅で生活しているような食卓を目指しております。利用者様がお手伝いに参加したり、ご自宅で過ごしているようになりラックスできる空間を設け、利用者様同士や職員と一緒に談話できるグループホームとなっております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0390100170-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0390100170-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道46号線と県道1号稲荷交差点前の住宅地にある2ユニットの事業所で、開所し10年を経過している。職員は、会社の理念の他に、利用者が健康を維持し元気に楽しく安定した生活を送れるよう、各ユニット毎に具体的な行動目標を定め、日々の生活を支援している。調理専門職員・掃除専門職員を配置したことで、利用者への対応時間が増え、サービスの向上に繋がっている。平成28年より近所の方々を対象とした「地域交流会」を年数回定期的に開催しており、最近では、健康体操や介護保険手続き等をテーマとし、地域から高齢者の生活を支える事業所として期待されている。介護度の高い利用者が多いユニットは賑やかな雰囲気、介護度が若干低いユニットは個々に過ごすことを好む傾向と、各ユニットの個性を活かしながら、利用者職員と一緒に生活している事業所である。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年1月20日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホーム たんぽぽ（2F）

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会やケース会議等で基本理念を再確認し常に目が付く入り口付近に掲示し職員に周知徹底しております。他、各ユニット毎に職員間で考えた理念に基づく具体的目標を職員の目につく場所に掲示し常に心がけております。	本社運営の5グループホームとも、同じ理念を掲げ、当グループホームでは、年度初めに、ユニット毎に、理念に基づく具体的な行動目標を決め、職員の目に付くところに掲示し、意識して日々のケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板で地区の行事や活動を確認、時間が合えば参加させて頂いております。また、H28年から始めております「地域交流会」と題しまして包括の方を講師に招き地域住民の方々を呼び様々な講習会を開催しております。	町内会に加入し、会の行事に参加している。地域の方々を対象に、定期的に「地域交流会」を開催し、最近では、健康体操、鍼灸師による体操、介護保険の手続きをテーマとしている。この交流会は、町内会の皆様、利用者、職員との名実ともに交流の場となっている。	子どもが地域に少なく、保育園も遠く交流困難で、現在は、地域の方々と様々な形で交流を続けていくこととしている。今後とも、地域交流会等の継続を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を園に招き認知症の方を理解して頂いたり、地域交流会や勉強会を通じて地域の方々へ発信しております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しており、様々な方法で議題を設け、サービス向上のため様々なご意見や提案を頂くよう努めております。	運営推進会議は、盛岡駅西口地域包括支援センター、稲荷町町内会の会長以下4名、家族代表2名の委員で構成し、会議では、運営内容、行事などを報告し、最近では、ハザードマップや過去の浸水の状況が話題になった。会議に合わせて避難訓練を実施した際には、消防署から避難の様子がよかったと褒められた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録、外部評価の結果を随時、送らせて頂いております。また、情報は盛岡市よりメールで情報提供いただいております。	市長寿社会課の依頼で、事業所のホールを会場に、「シルバーリハビリの出前講座」を実施する予定である。担当課とは、メールやFAXで連絡しあうことも多い。地域包括支援センターとは、運営推進会議の際に、入居や更新手続きなど相談し、助言を頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内での勉強会を開催。身体拘束に関して6月、11月に勉強会を開催し身体拘束を行わないケアをしております。玄関の施錠は防犯です。	身体拘束適正化検討委員会を、年4回開催している。委員は、運営推進会議の委員に依頼している。身体拘束ゼロの手引きやスピーチロックについて、資料を用いて勉強会を行っている。防犯の目的で行っている日中の玄関の施錠について、運営推進会議で検討している。床センサーやセンサーマットを若干名使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケース会議や申し送りなどで様々な意見を些細なことでも交換し、1人で抱え込まないように注意を払っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な対応が出来る様、各勉強会に参加したいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営推進委員にご家族様代表で2名参加頂いており様々なお意見を会議でお話し頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員にご家族様代表で2名参加頂いており様々なお意見を会議でお話し頂いております。また、昨年からは	運営推進会議に家族委員2名が参加し、ホームでの生活状況を理解頂いている。介護計画の説明時や通院同行時に要望等を聞いている。敬老会やクリスマス会に家族を招待し、意見等を聴く機会にもしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は業務に入り職員からの要望や意見を聞きより良い環境を提供し困難な場合は本社に報告し指示を受けております。	会社の全体会議(年2回)には、管理者が出席している。毎月ユニット毎に行っているケース会議(介護計画等の検討)や朝の申し送り時、或いは業務時間中に、職員から要望や意見を聴いている。職員の提案で調理専門、掃除専門職員を配置したところ、利用者と共に過ごす時間が増え、職員は利用者を細かく観察できたり、レクを工夫したりと、日々のケアに活かしている。資格取得を目指す職員には、研修会参加やシフトの配慮を行い、資格取得後は手当に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は得意、不得意を考慮してます。また、希望休みや体力面を考えシフトを作成、研修会は勤務としております。また、昨年より調理専門職員を配置し職員の業務を軽減しております。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会(スキルアップ)委員を主体として遠(内・外)の研修に参加者を選んでもらっております。研修後の報告会もきちんと行っております。資格取得へのバックアップは積極的に行っております。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会主催の講習会に参加したり交換研修に参加し他施設の職員との交流を図っております。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際、ご家族様やケアマネからききとりを行いご本人との面談の時点で困り事や不安に感じている事を把握、職員に周知、入居後は行動や言動を観察しご家族様と連携を取っております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様からお話を伺い不安に感じている事や今後の事についてお話しさせて頂く。入居されてからも不安に感じている事などを伺いサービスに反映させて頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様から意見や要望を聞き必要に応じ様々なサービスを利用(紹介)しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者1人1人の状況に応じやれる事を引き出し協力、声掛けを行っております。日常の軽作業を積極的に行っていただき、家事の一端を担って頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に受診介助に来られるご家族様へは日々の状況を説明しております。また、中々来られないご家族様へはお手紙で近況を報告させて頂き、来園して頂ける様、お伝えしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様が定期的に来られ以前から利用されている美容院へ連れて行かれたり、以前からのかかりつけ医を利用しております。ご家族様を通して年来のご友人と一緒に面会にもいらっしゃいます。	定期的に家族が面会に訪れ、かかりつけの美容院に行っている。一緒に働いていた友人が、定期的に面会に来られる利用者もいる。全体的には、週1人程度の面会回数である。訪問理容を利用している利用者は、理容師と馴染みの関係になっている。入居して知り合いになり、相互の居室を訪問しあっている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で互いの相性をみたりして食席の配置を考えたり部屋の移動も時々しております。更に、ベンチのある共有スペースや、席を移動して利用者様同士コミュニケーションを図っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院生活が長引いたり退去後であってもご家族様が対応できない場合は洗濯や食事介助に向き他施設入居後も様子を見に行ったりご家族様から近況をお知らせいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の意向を何気ない会話からなるべく引き出すように努力しております。	言葉で意思確認できる利用者は、1階は半数以上、2階は少数である。1、2階とも、言葉での意思確認や出来ない場合は、表情、仕草、動作等から把握に努めている。隣りに座っている利用者に、自分の要望を伝えて貰っている利用者もいる。「今日泊まるのか」「俺も泊まる」などと、利用者同士の会話も聞こえてくる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やケアマネ等から生活歴を聴き職員間で周知しております。ご自宅での生活サイクルにあったリズムになるべく近い形で支援しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の言動や行動を観察し職員間で共有、ケアを統一するようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを3ヶ月毎に見直ししております。また、申し送りノートをや介護支援経過を参考にし、声掛けや接し方がバラバラにならずチームケア出来るようにしております。なお、計画書のほか来園した際やお手紙などでも、近況のご報告や情報のやりとりもしております。	介護計画は、かかりつけ医、利用者、家族の意見や意向を職員間で検討し、介護支援専門員、計画作成担当者が作成している。入居時のプランは2、3か月で見直し、その後は原則3か月、6か月毎に見直ししている。個別計画に基づき、細やかに支援しており、変化があれば随時介護計画を見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕毎日申し送りをを行い、気が付いた事や周知することがある場合は申し送りノートに記入しノートは必ず閲覧。ケース会議で共有し実践、計画書に反映しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応や入退院が出来る様、柔軟に対応しております。ご家族様からの要望にも対応出来る様心がけております。その他ご自身が必要な日用品の買い物支援などを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方々には地域交流会での講師を、民生委員の方にはボランティアを紹介したり簡単に作れるお菓子を教えて頂いたりしております。ご近所の方から季節の野菜の差し入れなどいただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の要望に沿っております。ご家族様が元々のかかりつけ医に受診されるケースが増えており受診の際は園内の様子を細かく報告しております。ご家族様が支援困難な利用者様にも元々のかかりつけ医に受診介助しているケースもあります。また、必要に応じ専門医(歯科・皮膚・爪切り)往診をお願いしております。	入居前のかかりつけ医を継続している利用者が多い。通院は、家族の同行が原則であるが、都合の悪い場合は、職員が代行している。歯科・皮膚科は訪問診療を利用している。爪の管理は、家族の同意を得て専門家に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在ですが急変時は協力医の指示で適切な医療を受けられるよう支援しております。緊急性がある場合は救急車の要請をしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院に向け洗濯物を受け取る際に看護師の方から情報を聴いたり、ご家族様と連携を取っております。また、医師からの説明の際はなるべく参加させて頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書にて指針を作成しご家族様へ説明しております。終末期の場合は主治医の方からわかりやすく説明して頂き、ご本人やご家族様が一番良い方向を検討、ご理解に十分な時間を摂るように心掛けております。昨年末、看取りについて訪問看護師を招き「施設での看取り」についてお話しいただき大変参考になりました。	入居時に、重度化した場合の対応を家族に説明し、理解頂いている。終末期には、かかりつけ医が家族に説明し、利用者や家族の意向を尊重して対応している。これまで、看取りの経験は無い。看取り指針を作成し、勉強会を行っており、職員の心構えとして、訪問看護ステーションの看護師を講師に、看取りについての職員研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を受講救急要請や応急処置の研修にも参加(AED)職員が不安に感じている事柄を勉強会を開催したり実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いで年2回避難訓練を行っている。また防災委員を選出し自主訓練(連絡網)を全職員で行っている。自然災害に備え本社からのバックアップ体制がマニュアル化されている。	年2回、消防署立会いで避難訓練を実施しており、推進会議の委員も参加している。避難場所は、隣接の自動車学校が指定されている。連絡網の通報訓練、車椅子での避難場所への移動、夜間の避難訓練なども自主訓練として実施している。AEDを常備し、食糧や水を備蓄している。本社の応援体制が確立されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人それぞれに合った声かけや尊重し合えるような関係を構築しております。利用者様から色々なお話を聞き人生の先輩として教えていただいております。様々な場面でプライバシーを守った対応を心がけております。	利用者へは「さん」付けで呼びかけている。入室時にはノックを励行し、入浴介助、トイレ誘導等の際には、特にプライバシーや羞恥心に配慮している。異性介助にも配慮している。日常会話の中でも、触れてはいけないこと、嫌がることなど、利用者一人一人を把握し、職員間で共通認識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が日々ご自分の希望や決定ができるようにコミュニケーションを図り、自己決定が難しい利用者様には閉じた質問の活用、なるべくその人が望むような選択ができるように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体調に合わせ職員側の都合を優先せず、生活リズムを大切にしながら、ご本人が選択できるように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪店に定期的に出張していただきカットや顔そりをして頂いております。毛染めを希望されている利用者様には、負担にならないように職員が行っております。洋服や下着・化粧品などは家族に買って来て頂いたり職員と一緒に買い物しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が感じられる様な旬な食材を取り入れたメニューになっており盛り付けや食器も工夫し入居者様に楽しんで頂ける様努力しております。栄養面はバランスのとれた食事となっております。調理の下準備や食器ふきなど積極的に行っております。職員と一緒に食事することにより、安全に配慮し会話を楽しみながらの食事となっております。	献立は、会社の食事部から示されている。利用者へは同じ食事を提供することが望ましいという考えで、系列のグループホームは皆、同じ献立である。調理専門職員を配置し、職員は朝食と休日だけ調理をしている。利用者は、盛り付け、配膳を手伝っている。行事に合わせ、お節、ひな祭りのちらしに貝のお吸い物、こどもの日のちまき、クリスマスのケーキ等々、行事とともに食事を楽しんでいる。利用者の状態に合わせ、1階では1人にミキサー食、2階では2人にとろみ食、1人に一口大の刻み食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人一人の状況を把握しロミ剤や刻み等、工夫し自分で食べる事の楽しみを援助しております。水分摂取が足りない方にはゼリーやスポーツドリンクなどで対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの外部研修に参加、個人の状況に応じたケアをしております。歯科往診を依頼し口腔内の検診も定期的に行い医師からの指示を頂いております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用、個々に声掛けし誘導しております。排便が困難な入居者様へは医師から下剤を処方して頂いたり排便を促す体操や歩行運動を促しております。	利用者全員が、日中はトイレを使用している。利用者個々の状態に合わせ、リハビリパンツ等の排泄ケア用品の使い方を工夫し、自立に向けた支援をしている。布パンツ8名(1階2人、2階6人)他はリハビリパンツを使用している。車椅子の利用者の方でも、その意思に沿って、トイレで排泄出来るよう誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ前の体操、食物繊維豊富な食材の使用、乳酸飲料の提供、水分補給(スポーツドリンク)等、様々な工夫をしております。できるだけ自然な排泄ができ、どうしても困難な場合には医師から下剤を処方していただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にあった支援をしている	週2~3回、その日の体調や本人の意思を尊重し入浴の声掛けを行っております。浴室に音楽を流したり、しょうぶ湯や、ゆず湯など季節を味わえるような入浴の施行。風邪などの時には最低限の清潔保持を確保。排泄後や就寝前にはホットタオルを使用し清拭施行しております。	浴室は、日曜日以外毎日準備している。入浴は2、3回できている。入浴を避けたい方には、健康診断で体重測定するからと声掛けすることで、入浴が出来ている。入浴しない日は、就寝前の下着に併せて、温タオルで清拭している。菖蒲湯や柚子湯で、昔を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大事にし入床前はなるべく自由に居室や食堂でくつろいでいただいております。利用者様同志・職員を交えて他愛もない話をしリラックスしていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様が服用されている薬に関して用法や副作用について薬剤師からの説明を受けております。誤薬などが起きないように名前を読み上げ複数で確認しております。その人に応じ形状を工夫したり、トロミやお茶ゼリーの活用・経口方法を工夫しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に応じて洗濯物たたみや食器拭き、食事の下準備などお手伝いの場を提供しております。人と人との関わりを大切に、季節に応じたレクを取り入れ、生活に潤いが出る様な支援をしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の要望に応じられるように努力しております。春先から初夏にかけ毎日のように散歩したり、外出レクの実施、受診の際に買い物機会を設けております。年末やお盆の際には、ご家族様と外泊もしております。	外に出ることを心掛け、日向ぼっこしながらゲームをしている利用者もいる。事業所の周りを散歩し、民家の庭の八重桜を観るのを毎年楽しみにしている。ちゃぐちゃぐ馬っこ、花見、紅葉狩り等の季節のドライブは恒例となっている。地域のごみ拾い運動の参加者と交流している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は現金を持たれている利用者様は1名おり、必要な支払いや、買い物の支援などをしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は毎年、ご自身で書き送らせて頂いております。昨年10月までは携帯電話を所持している利用者様はたびたびご家族様と連絡をしていました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真を積極的に掲示し、それを見て利用者様同志で談笑されております。また、室内の掲示物はなるべく利用者様がかかわって作成した物を掲示しております。日当たりのよい共有スペースでは席を移動したり、居室を訪問したりしております。お天気の良い暖かい日には戸外・園内で、日々のんびりと談話し過ごしております。	共用のホールは、日当たり良く、広いスペースとなっている。ホールでは、10時にカラオケ体操、15時にテレビ体操、食事前は嚥下体操を行っており、明るい声や歌声が聞こえている。各階に乾燥室が整備され、廊下やホール等の共用スペースは整然としている。掃除専門職員を配置しており、居室も含め清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際は食席が決められておりますがレクをする時は皆で丸くなったり工夫しております。畳の小上がりでは新聞を見たり洗濯を畳んだり自由にされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご家族様へ使い慣れたものを持って来て頂くよう伝えており椅子や時計等、持ってこられております。来援された際には写真を撮り、居室に掲示して話題にしております。	ベッドとクローゼットが設置され、椅子や時計、思い出の小物や家族の写真を飾り、自分の家となっている。ベッド周りが広く、転倒防止に配慮している。床センサー等を使用している利用者が若干名いる。丁寧に掃除され、清潔感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所の張り紙、居室入口の表札等で自ら探していける様に工夫しております。夜間、目が覚めてトイレの場所がわかるように、ご家族様への配慮もしながら夜間だけ、居室に場所の案内の掲示もしております。		